

地域志向科目

1.北九州市立大学における地域科目（主なもの）

北九州市立大学では学生自身の学習・生活の地である北九州・下関地域の魅力を知り、地元企業に対する理解と関心を向上させることで、自らのキャリア形成について考えることを目的とした教育プログラム「地域科目」を開講した。北方キャンパスにある全学部（地域創生学群を除く）の平成 28 年度以降の入学生を対象に平成 28 年度より開講し、選択必修科目の中から 2 単位以上の修得を義務付けている。本年度は選択できる科目数を大幅に拡大し、12 科目を配置した。また受講対象者も範囲を広げ、北方キャンパスの地域創生学群を含む全学部・学群とした。また、一部の科目を北方・ひびきの連携科目とした。1 年生以上を対象に 1 学期（前期）に「地域の社会と経済」「地域の文化と歴史」「地域と国際」「地域防災への招待」「地域特講 A」を、2 学期（後期）に「地域のにぎわいづくり」「都市と地域」「地域の達人」「地域特講 B」を、2 年生以上を対象に 1 学期（前期）に「北九州市の都市政策」を、2 学期（後期）に「まなびと企業研究 I」を、3 年生以上を対象に 1 学期に「まなびと企業研究 II」を開講した。

（1）地域科目「地域の文化と歴史」

【担当教員】 地域戦略研究所 教授 南 博

【受講者数】 332 人（外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学群）

【授業概要】

北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して、基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、北九州市等の地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察するきっかけをつかむことを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず地域外出身者にとっても、学生生活や就職、社会での諸活動の充実につながる学びとなる内容を指向する。

【実施結果】

本授業は、地域への関心や愛着を深めることを主眼とし、また地域の各種ミュージアム等を学生が訪問するきっかけを作って地域への理解を一層深めることを誘発することにより、間接的に学生の北九州・下関地域での就職につながることを目指している。一方で、登壇いただくゲストには北九州市立大学の OB・OG が複数おられ、大学卒業後に北九州市内で就職や文化活動を行う先輩としての経験談を織り交ぜてお話いただくことにより、学生のキャリア形成、地域での就職のメリット等に気づきを与えていただく授業となっている。

授業の前半を「歴史パート」、後半を「文化パート」と位置づけて構成し、北九州市と下関市の公立ミュージアム等から第一人者をゲストとしてお招きして授業を実施した。授業の実施内容を下表に示す。12 回の授業で各分野の北九州・下関地域における第一人者をゲストとしてお招きし、各氏とも北九州・下関地域に関わる文化・歴史を深く掘り下げ、学生に思考を促す話をしていただき、非常に有意義な内容となった。さらに、上述の北九州市立

大学のOB・OG以外のゲストからも、地域のミュージアムでの学芸員等の職務内容ややりがい、苦労話など、学生のキャリア形成に際して参考となる事柄も織り交ぜながらお話をいただいた。

表4 授業テーマとゲストスピーカー

回		授業テーマ	ゲストスピーカー
第1回	—	ガイダンス	北九州市立大学 教授 南 博
第2回	歴 史	現在の地域（北九州・下関地域）	北九州市立大学 教授 南 博
第3回		原始の地域	下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 学芸員 高椋 浩史
第4回		古代の地域	下関市教育委員会教育部文化財保護課長 濱崎 真二
第5回		中世・近世の地域	北九州市立いのちのたび博物館歴史課学芸員 守友 隆
第6回		幕末期の地域	下関市立歴史博物館 学芸員 稲益 あゆみ
第7回		明治以降の日本の近代化と地域	北九州市企画調整局世界遺産課世界遺産担当係長 西井田 智枝
第8回		文 化	地域の文学②
第9回	北九州市立美術館のコレクション		北九州市立美術館学芸課学芸係長 那須 孝幸
第10回	（全学休講）		—
第11回	地域の文学①		北九州市立文学館 学芸員 小野 恵
第12回	地域の漫画文化、ポップカルチャー		北九州市漫画ミュージアム 学芸員 石井 茜
第13回	地域の映画文化		北九州フィルムコミッション事務局 神園 純一
第14回	地域の文化財		北九州市市民文化スポーツ局文化部 文化企画課文化財係長 江藤 誠浩
第15回	地域の芸術、音楽、演劇		北九州芸術劇場 ローカルディレクター 泊 篤志 北九州芸術劇場 プロデューサー 龍 亜希

(敬称略)

学生からは、これまでと同様、「歴史や文化の見地から地域を学ぶことに興味を持った」旨の前向きなコメントを多数得た。

本授業は令和元年度から地域創生学群の入学生も受講可能となり、北方キャンパス全学部・学群から受講者が集まる講義となった。次年度以降も引き続き、文化や歴史の切り口から北九州・下関地域に対する学生の関心や愛着を高めるべく高い専門性を有した実務家に登壇いただき、より充実した授業となるよう努めていきたい。



(2) 地域科目「地域の社会と経済」

【担当教員】 地域戦略研究所 特任講師 柳 永珍

【受講者数】 279 人（外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学群）

【授業概要】

この授業は、北九州・下関地域の発展から現状に至るまでの流れを学習した上で、時代と共に変遷してきた社会的・経済的特性を様々な観点から学ぶことを通じ、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。授業においては、各トピックに関して、地元企業の関係者や専門家など、現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

本講義は、地域の歴史・産業発展・人口変化・政策などの基本事項を学ぶ「地域の社会・経済の変化」分野、現在の地域経済を支えている地元企業の強みや国内外に向けた戦略・取組、地域貢献などを学ぶ「地域の企業」分野、北九州・下関地域のビジョンと活性化のための事例や知識を学ぶ「地域の未来」分野という 3 つの内容で構成されている。主な回の授業テーマとゲストスピーカーは表 5 のとおりである。

表 5 授業テーマとゲストスピーカー

授業テーマ	ゲストスピーカー
北九州の産業・社会・市政・市民など	北九州市立大学名誉教授 神山 和久
下関の産業・社会都市戦略	(一財) 山口経済研究所調査研究部長 宗近 孝憲
北九州市の都市戦略(観光を中心に)	(株)北九州経済研究所研究課長 林 一夫
北九州・下関地域と貿易(韓国との経済連携)	大韓貿易投資振興公社福岡貿易館次長 ゴ・チュンソン
地域の企業①	極東ファディ(株)代表取締役社長 秋本 修治
地域の企業②	プレミアムホテル門司港総支配人 齋藤 孝司
地域の企業③	クラウン製パン(株)常務取締役 松岡 寛樹
地域の企業④	ヤフー(株)北九州センターエリア PD 部長 戸高 明生
地域の企業⑤	(株)ナフコ代表取締役社長 石田 卓巳
日本一起業しやすいまち北九州	COMPASS 小倉事務局長 黒瀬 義機
地域をみる視線・地域実践の事例	NPO 法人 ART BRIDGE INSTITUTE プロジェクトディレクター 江上 賢一郎

(敬称略)

講義の前半では、地域の経済変化や現状を表すイメージ資料やマクロデータなどを分析しながら、受講生が地域の強みや課題を自ら省察してみるように努めた。次に、地域経済面において重要な主体である地元企業の方針や戦略、地域貢献の取組を紹介することで、「地元で働くというイメージを具体化する」、「地域経済の底力を認識する」、「地元企業の魅力を体感する」ことによるシビックプライドの醸成ができるように進めた。終盤では、受講生が地方創生に関して、主体的に考察できるよう、地域の資源や世界の事例を紹介し、地域のビジョンを考えてみる講義を行なった。

なお様々な専門分野を持つ講師の講義内容が当科目の目的に基づいて統一性をもつよう

に、また受講者の主体的なアイデアや意識を導き出すことができるよう、事前に打ち合わせを重ねて講義内容を検討してきた。また、穴埋め式の配布資料、動画資料などを積極的に活用してもらうことで、受講生の関心や理解度を高めることに成功した。

特に本講義では毎回の授業終了前の20～30分に「当日レポート」の作成を課してきた。この当日レポートは、大人数の当講義において、学生も自らの表現ができる手段として構想されたものである。主な例を挙げてみると、「あなたに100万円があるのであれば、北九州の何に、どこに投資するのか」という設問に対するレポートを通じて、学生の目線から見た地域の底力や可能性を探り、実際に登壇者によるビジネス化の可能性も検討してもらう回などがあった。レポートを見ると、多くの受講生が北九州・下関地域などの現状に関心を持つとともに、地元の企業を就職先として考え始めたようである。レポートの内容を一緒に検討した各講師からは、「学生からのアイデアが非常に斬新で刺激的だった」「地域の学生に地元企業のアピールができる良い接点となった」などの感想が寄せられた。

ただ、主に地元企業に関する情報発信と理解度を深めることにおいては大きな効果があったものの、その関心を持続させるための取組はまだ十分ではないと思われる。登壇者と関心度が高い受講者の間で、有意な関係性が保たれるように、契機を創出する方法などを補完する必要がある。

(3) 地域科目「地域と国際」

【担当教員】 地域戦略研究所 教授 吉村 英俊

【受講者数】 132人（外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学群）

【授業概要】

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めている。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされている。さらに外国人観光客も年々増加している。こういった状況にあって、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘し国際化の実状を話していただき、学生との間で意見交換を行う。

表6 授業テーマとゲストスピーカー

授業テーマ	ゲストスピーカー
北九州市の取組（多文化共生）①	北九州市企画調整局国際部国際政策課長 一徳 仁
北九州市の取組（水インフラ）②	北九州市上下水道局海外事業部海外事業課長 森永 健一
北九州市の取組（低炭素化）③	北九州市環境局アジア低炭素化センター担当部長 小田 真由美
国の取組（JICA）①	NPO 法人九州海外協力協会事務局長 馬田 英樹
国の取組（JETRO）②	JETRO 北九州貿易情報センター所長 新井 剛史
企業の取組（製造業）①	北九州市立大学キャリアセンター学生支援担当部長 木村 潤（TOTO(株)）
企業の取組（建設業）②	(株)ウエスト・マネージメント取締役 金子 玉青
企業の取組（サービス業）③	(株)アウルズ代表取締役社長 木下 彰子

授業テーマ	ゲストスピーカー
企業の取組（金融業）④	(株)北九州銀行事業性評価部長 若狭 芳親
国際化の中でいかに生きるか（ダイバーシティ）①	(株)Global Stores 経営企画室長 池田 真佐博
国際化の中でいかに生きるか（スタートアップ）②	北九州市産業経済局生産性改革推進課長 上野 信成
北九州市立大学の取組	北九州市立大学国際化推進室長 櫃本 礼二

(敬称略)

この授業の目的は、一度きりの人生を大きく大胆に生きるためのきっかけをつくる（マインドセットを行う）ことである。そのためには海外を相手にたくましく働いている地元の企業やその担当者に生の声を発してもらい、大いに触発されることを狙っている。具体的には、身近な北九州市の取組にはじまり、地元企業や国の取組を紹介している。また国際化が日常化している中でいかに生きていくのか、組織に依存しない新しい生き方についても紹介している。なお発表者には、取組を忠実に紹介するだけでなく、これから地域や国を導いていく若者に対して、エールを熱く語るようお願いしている。

学生の出席率は毎回ほぼ 100%であり、真剣に聞いていた（登壇者の迫力にやや押されていた）。毎回提出させているレポートには、地元の企業や公的機関の取組を初めて知り、こういった仕事がしてみたいという意見が多くあった。とくに市役所への関心が高かったように思われる。また登壇者の生き方に触発され、いろいろなことにチャレンジしたいという前向きな意見が多かった。また 1 年生の前期に、当授業を受けたことで、これからの大学生活で何をしなければいけないか、考えることができたという意見も多く、授業の目的をほぼ達成することができた。これらの学生が 4 年間に何を経験し、どのくらい精神的にたくましくなるのか、楽しみである。



(4) 地域科目「北九州市の都市政策」

【担当教員】 地域戦略研究所 教授 内田 晃

【受講者数】 299 人（外国語学部、経済学部、文学部、法学部）

【授業概要】

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業の目的は、北九州市の都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境などの施策に関して、市が現在取り組んでいる政策を第一線でご活躍されている行政担当者から直接話を聞くことによって、地域への愛着を深めるとともに、地域課題を考える力を身につけることである。各回のテーマ及び講師を表 7 に示す。2019 年 6 月 17 日（月）に開催した第 9 回の講義では、北九州市の北橋健治市長に初めてご登壇頂いた。この回は本講義の受講者だけでなく、本学の全学生にオープンな特別講演として実施し、400 人近い聴衆が集まった。北橋市長からは、北九州市の人口減少の状況、首都圏等の都市と比較した北九州市の住みやすさ、若者が働きやすいまちを目指す北九州市の取組などについて概説頂き、学生達の興味・関心を大いに引く授業であった。

表 7 授業テーマとゲストスピーカー

	授業テーマ	ゲストスピーカー
第 1 回	ガイダンス／北九州市の都市政策の歴史	内田 晃
第 2 回	北九州市における自治会の役割と現状／小倉南区北方校区自治連合会の活動	津山 修（小倉南区役所コミュニティ支援課コミュニティ支援係長） 毛利 隆一（北方市民センター館長）
第 3 回	北九州市の都市計画	内藤 隆（建築都市局計画部都市計画課計画調整係長）
第 4 回	北九州市の交通政策	澤田 尚人（建築都市局計画部都市交通政策課企画調査係長）
第 5 回	北九州市の空き家対策、空き家活用	彌榮 高広（建築都市局住宅部空き家活用推進室長）
第 6 回	公共施設マネジメントの取組	勝野 尚幸（企画調整局都市マネジメント政策部都市マネジメント政策課都市マネジメント政策係長）
第 7 回	北九州市の道路整備について～造る道づくりから、活かす道づくりへ～	富吉 晋作（建設局道路部道路計画課計画係長）
第 8 回	門司区のまちづくり	川崎 文寛（門司区役所総務企画課企画係長）
第 9 回	【市長特別講義】北九州市にはあなたの活躍の場がある	北橋 健治（北九州市長）
第 10 回	北九州市の港湾政策	麻生 哲男（港湾空港局港湾整備部計画課計画第一係長）
第 11 回	環境保全の幅広い取組／産業廃棄物の処理	山田 紀之（環境局環境監視部環境監視課水質土壌係長） 松本 秀治（環境局環境監視部産業廃棄物対策課指導係長）
第 12 回	ごみの適正処理と資源循環	伊藤 大志（環境局循環社会推進部循環社会推進課事業系ごみ減量化担当係長） 佐藤 貞一（環境局環境国際経済部環境産業推進課環境技術開発担当係長）

	授業テーマ	ゲストスピーカー
第 13 回	北九州市の環境学習システムと ESD の取組／北九州市の環境国際協力・ビジネス	稲田 佳代子（環境局総務政策部環境学習課 ESD 推進係長） 中村 雅弘（環境局環境国際経済部環境国際戦略課企画調整係長）
第 14 回	北九州市のエネルギー政策／北九州市の温暖化対策	平井 良知（環境局環境国際経済部地域エネルギー推進課政策係長） 樋口 雅之（環境局環境国際経済部温暖化対策課低炭素推進係長）
第 15 回	北九州市の高齢社会対策	青柳 祥二（保健福祉局地域福祉部長寿社会対策課長）

（敬称略 所属はすべて北九州市役所）



ゲストスピーカーからは、各部署が取り組んでいる施策の背景や課題、方針などについてご説明頂き、目玉となっているプロジェクトなどについても詳細なご紹介を頂いた。インフラ整備を主とした都市づくりから、空き家活用、環境、高齢者福祉に至るまで、幅広い分野の話を包括的に聞くことができたため、学生からは「北九州市が取り組んでいる重点施策を知ることができて北九州市民としての愛着が益々深まった」、「公務員としての女性の働き方を知ることができて自分も公務員という仕事に興味を持つことができた」、「都市の将来像を聞くことができて、自分もこの街で就職・結婚・子育てをするという具体的な将来ビジョンを想像することができた」など、建設的な意見が多数あげられていた。また、各講義の最後にはゲストスピーカー側が設定した質問に答えるレポートを書いてもらった。設定した設問は例えば「実現可能と思う自治会脱会防止・加入促進策は」「普段公共交通機関を利用する中で不満に思うこと」「門司港レトロ地区に今後継続して多くの観光客が来るために必要な手段は」「北九州市が環境のまちとして国内外で高い評価を受け、さらに知名度を高めるためにあなたができる『アクションプラン』は」などで、提出されたすべてのレポートはコピーして各部署に持ち帰って頂いた。約 300 人の貴重な意見を各部署で共有でき、現代の若者がどのように考えているかが明らかになり大変有意義であった、との評価も頂いた。

来年度以降の課題としては、より学生が興味を持ってくれそうなテーマ設定をするとともに、大人数講義の中でも可能なアクティブラーニングのあり方を考えることなどがあげられる。

(5)「地域のにぎわいづくり」

【担当教員】地域戦略研究所 教授 南 博

【受講者数】242人（外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学群、国際環境工学部）

【授業概要】

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域に求められるにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

令和元年度授業においては、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州（Jリーグ）等の協力のもと、「スタジアムをいかした街の活性化」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州（愛称：ミクスタ）を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成した。また、実務者をゲスト講話としてお招きし、にぎわいづくり政策の意義や課題等についてお話しいただいた。

なお、令和元年度入学者から、本授業に関しては北九州市立大学の全学部・学群の学生が受講可能となり、令和元年度においては国際環境工学部を含む全学部・学群から受講があった。

【実施結果】

本授業は、地域課題解決に向けたPBL（Project Based Learning）型の授業として実施し、学生の地域への関心向上や、課題解決能力の向上、コミュニケーション能力の向上などを通じ、学生の将来の地域への就職への足がかりとなるような授業とすることを心掛け、令和元年度においてもフィールドワークや学生によるグループワークを中心に授業を展開した。

フィールドワークは5種類を用意し、主たるプログラムであるミクニワールドスタジアム北九州フィールドワークでは、実際にスタジアムへ赴き、試合中のスタジアムの盛り上がり等を体感し、地域の現状の一端を知るとともに、地域への愛着醸成にもつながった。その結果を踏まえ、242人の受講者が21グループに分かれて課題分析からプラン作成・発表まで活発なグループワークを行い、有意義な内容となった。また、(株)ギラヴァンツ北九州の幹部職員に集客プラン作成のポイント等について講演をいただいた。

集客プランの発表会は外部審査員を招いて実施し、審査員から内容について高く評価いただいた。また、その様子はTVニュース（RKB毎日放送）でも報じられた。21グループから出された提案の中には、「ギラヴァンツ北九州のスポンサー企業へのインターンシップや企業説明会」などを大学生の誘客に絡めてプラン立案した班も複数あり、地域の企業の認知度向上や就職活動に対する意識向上に本授業が役立った可能性を垣間見ることができた。

のは大きな成果として挙げられる。

次年度以降も引き続き、北九州・下関地域の活性化実現に向けた現状把握、課題分析、プラン立案等を通じて学生の地域への関心や課題解決能力の向上を目標に、実際に地域に学生が出て、また自発的かつ他者とのコミュニケーションのもとで学ぶスタイルの授業を展開する予定である。

表 8 授業テーマとゲストスピーカー

回	授業内容	備考
第 1 回	ガイダンス	
第 2 回	にぎわいづくり政策の意義①【観光政策】	
第 3 回	にぎわいづくり政策の意義②【スポーツイベント政策】	ゲスト：北九州市 国際スポーツ大会推進室係長 小島邦裕
第 4 回	にぎわいづくりとスタジアム	
第 5 回	プラン作成①【現状分析、課題抽出】	グループワーク：約 10 人ずつの 21 グループに分かれて展開
第 6 回	プラン作成②【アイデア検討】	グループワーク
第 7 回	スポーツの社会的存在意義と集客戦略、課題	ゲスト：福岡地域戦略推進協議会 アソシエイト 八角剛史
第 8 回	プラン作成③【アイデア検討の深化】	グループワーク
第 9 回	プラン作成④【アイデア検討の展開】	ゲスト：(株)ギラヴァンツ北九州 営業部長 島田哲夫
第 10 回	プラン作成⑤【プランとりまとめ】	グループワーク
第 11 回	集客プラン発表会①【一次評価】	全 21 グループの学生による発表
第 12 回	集客プラン発表会②【外部有識者による二次評価】	一次評価上位 8 グループの学生による発表 ゲスト：(株)ギラヴァンツ北九州 営業部長 島田哲夫
第 13 回	にぎわいづくり政策の意義③【にぎわいづくりの視点】	ゲスト：楽心堂本舗(株)代表取締役社長 大井忠賢
第 14 回	※2 回分については、10～11 月にフィールドワーク（選択制）で実施	ミクニワールドスタジアム北九州等でフィールドワークを実施
第 15 回	・10/27（日） J 3 ギラヴァンツ北九州 vs YS 横浜 観戦 ・11/24（日） J 3 ギラヴァンツ北九州 vs 讃岐 観戦 等	

（敬称略）

学生による「ミクスタ集客プラン」の例

5班

①「大学生世代100人以上」を1試合に集客する方策

内容：ギラヴァンツ北九州のスポンサー企業へのインターンシップ参加権利を獲得できる

時期：4～6月（夏休み中のインターンと仮定）

方法：

1：試合を観戦した大学生にスタンプカードを配布→スタンプカード＝参加権利

2：期間中のホームゲームに連れてきた友人の人数分、スタンプを押す
→スタンプ＝ポイント

P：友人の数＝「人望の厚さ」「コミュニケーション能力」→企業側も知れて嬉しい

3：より多くポイントを集めることができた人をインターンへ招待

課題と解決策：

- ・人員不足→ボランティアの募集（さらに大学生を集客可能）
- ・募集人数超過→一般的なシステムを導入

目的：取り組みを通じてサッカーの魅力を届ける

②その集客効果を持続させる方策

方法：

- ・黄色のうちわを配布し、
就活への意気込みや選手への応援メッセージを書いて試合観戦
→スタジアムが黄色に染まる＝一体感
- ・スポーツくじの実施

③集客した大学生が、小倉駅周辺で経済活動を活発に行うための方策

- ・試合後3時間後から2時間モノレールの料金割引



(6) 地域科目「まなびと企業研究Ⅰ」

【担当教員】北九州市立大学 地域戦略研究所 准教授 小林 敏樹

【受講者数】203名（外国語学部、経済学部、文学部、法学部）

【授業概要】

2年次・2学期配当科目。北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識、考察し理解を深めることを狙いとする。本講義では、地域づくり、まちづくりといった分野についての事業や取組を行っている企業、団体に焦点を当てる。具体的な業界、分野としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「ユニバーサルデザイン」、「ジェンダー」、「国際協力」などである。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待している。

【講義内容】

各回、さまざまな分野の方々に登壇いただき、企業、団体の紹介だけでなく、各分野の将来性、登壇者の経歴、仕事の面白さ、やりがい、大学時代に学んでおいたほうが良いあるいは取り組んでおいたほうが良いと思われることなどについてご講演いただいた。講演後、講演内容についての質疑応答を行った。インターネット上で無記名で行える質疑応答ツールを活用し、活発なやり取りがなされた。さらに、毎回講義終了後、各登壇者が考えたレポート課題に取り組んだことにより、知識の定着、学びの深化が見られた。

【受講者の反応・感想】

- ・自分が元々知っていた企業や団体もありましたが、ほとんどが初めて聞く内容だったので面白かったと同時に自分の就職活動に役立てることができた。
- ・普段自分で調べてもわからないようなお話を、企業の方から直接聞くことができ良かった。
- ・来ていただいた企業に関する情報だけでなく、説明会では聞けないような担当者の方々の私見や経験談を聞いて、とても貴重な機会であった。
- ・様々な企業の方のお話を伺って、企業は自社の利益を得るためだけではなく、人々がより暮らしやすくなるように、またその地域が活性化するようになど、社会貢献を多くしていることがわかった。
- ・福岡県に来て2年経ったが、こんなに地域を思う企業があることを初めて知った。
- ・自分が就職したいと考えている分野以外の方の話を聞くことができ、視野が広がった。
- ・知らなかった企業もたくさんあり、今まで興味がない会社でも話を聞いて興味が出た。
- ・たくさんの企業の方に授業にお越しいただき、勉強になった。特に北九大出身の方々は参考になった。私はまだ将来像が決まっておらず職種も決まっていないため、この授業は私が求める企業について考える際の貴重な材料となった。
- ・14団体の企業の話聞く機会はなかなかないため、この講義は3年生の私にとって、企業研究が出来る貴重な時間だった。また14団体のうち、5割は初めて名前を聞く企業だったため、知らなかった企業について知識を得ることができた。

【登壇企業・団体の反応】

登壇いただいた企業、団体からは、「通常の企業説明会等とは異なり、時間をかけて事業や取組を丁寧に説明できた」、「レポート課題を通して学生の反応を得ることができ、それを今後の業務に活かしていきたい」といったコメントをいただいている。

登壇いただいた企業、団体のなかには、講義終了以降、インターンシップについて話を進めている企業や、地域創生学群のゼミ活動へのかかわりの検討を始めている企業、団体もあることから、一講義での講演にとどまることなく、本学とのより密接な関係性への進展も期待できる。

表9 授業テーマとゲストスピーカー

授業テーマ	ゲストスピーカー
まちや人と向き合い未来へつなぐ	北九州市産業経済局雇用・生産性改革推進本部雇用政策課 地元就職促進担当係長 大前 亜弥
私の視点から見た北九州商工会議所と地域貢献	北九州商工会議所総務企画部企画広報課係長 山根 浩二
ボランティアのはじめ方/災害ボランティアセンター～ひろがる世界～	(社福)北九州社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 活動推進課 大矢 剛
TOTOのユニバーサルデザイン・福祉機器の取組	TOTO(株)機器水栓事業部機器水栓開発9G 首席技師 堀内 啓史
第一交通産業株式会社の取組	第一交通産業(株)執行役員総務部長 田中 靖
鉄道ネットワークの価値向上とこれからの鉄道サービスのあり方	九州旅客鉄道(株)総合企画本部経営企画部 海老原 毅
空き家の実態と今後の対応について～空き家再生と地域コミュニティ～ 観光分野における調査・データ分析業務のご紹介	(株)よかネット取締役 (主席研究監) 山田 龍雄 (株)よかネット執行役員 (主幹研究員) 原 啓介
地方創生コンサルティングの取組	(株)YMFG ZONE プランニング代表取締役 棕梨 敬介
男女共同参画社会の実現～ジェンダー平等をめざして～ 北九州市立男女共同参画センタームープの取組	(公財)アジア女性交流・研究フォーラム事務局交流研究部長 久末 隆彦 (公財)アジア女性交流・研究フォーラム事務局事業課長 住野 佳紀
地図ビジネスの未来とまちづくりにおける当社の貢献	(株)ゼンリン本社統括本部総務人事部人事課長 緒方 賢一
響ホールおよび北九州芸術劇場の取組	(公財)北九州市芸術文化振興財団音楽事業課 神田 和範 (公財)北九州市芸術文化振興財団舞台事業課 高橋 優
エリアマネジメント組織「We Love 天神協議会」の取組について	We Love 天神協議会事務局長 藏田 隆秀
助けられ続ける人生	(株)北九州家守舎代表取締役 遠矢 弘毅
国連ハビタットの役割と 災害地で実施するPeople's Process による復興まちづくり	国際連合人間居住計画福岡本部 本部長補佐官 星野 幸代

(敬称略)



(7) 地域科目「まなびと企業研究Ⅱ」

【担当教員】北九州市立大学 地域戦略研究所 教授 見舘 好隆

【受講者数】10人（外国語学部、文学部、法学部）

【授業概要】

北九州市や下関市の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることを目的にしている。

具体的には3つのセッションに分かれる。動画セッション（個人課題）は、あらかじめ指示した、キャリア形成を企図した動画を視聴させ、「動画から学んだこと」「その学びを就職活動にどう活かすか」について各個人が発表し、キャリア形成に必要な理論を学ばせた。シナリオセッション（グループ課題）は、あらかじめ配布したキャリア形成に関する課題に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担（文献収集・物語を練る・パワーポイント作成・発表練習も含めたマネジメント）を行い、授業でパワーポイントを使ってプレゼンすることで、課題解決のノウハウを習得させつつ、キャリア形成の実践を行った。フィールドワークセッションは最終プレゼンテーションの課題である。北九州市や下関市を中心に企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンし、今まで知らなかった企業を受講者全員で共有しつつ、就職活動に直接つながる行動を実践させた（取材企業は㈱不動産中央情報センター、㈱エイチ・アイ・エス、㈱西部毎日広告社、㈱田村ビルズなど、関門地域の企業が中心）。

本授業を通しての学生の変化は最終レポート「授業での学びを今後の就活にどう活かすか？」で読み取れる。総じて「私は本授業で、何をしたら良いかというものを具体的にイメージできるようになりました」「計画された偶発性に基づいて、今年の夏は積極的に行動する。関心のある企業について研究し、そこで共通する箇所を見つけ、自分の興味を再確認するとともに今の自分に不足している力を確認するとともに、学校生活やバイトの中で行動力やその不足している力をさらに身につけていく」といった記述が大半で、受講者は授業目的を達成できたと考える。

2.大学コンソーシアム関門

(1)「北九州・下関地域の魅力ある企業を、座学と企業見学で学ぶ」

【担当教員】北九州市立大学 地域戦略研究所 教授 内田 晃、教授 見舘 好隆

【受講者数】40人(北九州市立大学、九州共立大学、九州国際大学、西日本工業大学、下関市立大学)

【授業概要】

北九州・下関地域の企業や産業の特性について、地場大手・中堅企業を中心に様々な業種の企業関係者から話を伺う座学形式の講義と、同地域にある企業の事業所や工場の見学で構成されている。自社の強み、独自性・独創性、将来展望などをはじめ、本地域で創業するに至った経緯、自社や業界を取り巻く環境、地域社会との関わりなどについて、業種横断的に幅広く知ることを通じ、本地域の企業や産業に対する理解と関心を深めていく。

大学コンソーシアム関門は、関門地域にある大学（北九州市立大学、九州共立大学、九州国際大学、西日本工業大学、下関市立大学）が相互に連携・協力することにより、関門地域の高等教育の充実および発展を図るとともに、地域社会へ貢献することを目的として設立されたものである。平成21年度から運用が開始され、毎年各大学が提供する科目が開設されている。本事業に関連する科目としては平成28年度から「北九州・下関地域の魅力ある企業を知る」を2年間開講してきたが、平成30年度からは同じ枠組みで開講していた「北九州市の工場見学を通して、ものづくりと環境について学ぶ」と統合し、「北九州・下関地域の魅力ある企業を、座学と企業見学で学ぶ」として開講している。

【講義内容】

同科目は、座学と企業見学の2部構成となっている。座学は北九州・下関地域にある企業関係者から直接話を伺うもので、自社の強み、独創性、将来展望をはじめ、本地域で創業するに至った経緯、自社や業界を取り巻く環境、地域社会との関わり等について、業種横断的に幅広く知り、本地域の企業や産業に対する理解と関心を深めていくことを目的とするものである。企業見学は北九州市及び近隣市町村の企業を見学し、現場の専門家から事業内容や社会貢献などの話を伺うことによって、ものづくりの持続的な在り方(ESD)やものづくり企業に対する視野を広げることを目的とするものである。

企業の選定にあたっては平成27年度より北九州市会計室の支援のもと、金融機関5行（北九州銀行、西日本シティ銀行、福岡銀行、みずほ銀行、福岡ひびき信用金庫）と調整しながら進めてきた。

表10 参加企業及び講師

講義日	参加企業・講師	
8月19日	株式会社三井ハイテック	管理本部 総務管理部 人事教育部 教育・人権啓発グループ 森 雅宣
	公益財団法人健和会	人事部 部長 東 敬人
	株式会社スターフライヤー	運航本部 運航乗員部 乗員業務課 古瀬 由希
	株式会社サンキュードラッグ	人材育成部 次長(兼) 人材育成課長 網本 光宏
	株式会社不動産中央情報センター	総務人事課 係長 吉田 拓也
	第一交通産業株式会社	取締役総務部長 田中 靖

講義日	参加企業・講師	
8月20日	シャボン玉石けん株式会社	企業見学
	株式会社デコス	企業見学
8月21日	株式会社タカギ	企業見学
	九州旅客鉄道株式会社小倉総合車両センター	企業見学
8月22日	岡野バルブ製造株式会社	総務部 山口 博史
	株式会社なかやしき	総務経理部 次長 米森 伸幸
	株式会社リーガロイヤルホテル小倉	グループサービスチーム 部長代理 (兼)総務人事マネジャー 加来 弘樹
	株式会社西日本シティ銀行	人事部 人財開発室 高藤 由子
	株式会社ゼンリン	本社統括本部 総務人事本部 人事部 人事課 二階堂 康平
	株式会社安川電機	人事総務部 総務部長 池内 直樹

(敬称略)

座学は、令和元年8月19日及び22日の2日間、北九州市立大学サテライトキャンパス(小倉駅ビル・アミュプラザ小倉7階)において実施し、対象となる全5大学から40人(北九州市立大学:19、九州共立大学:1、九州国際大学:15、西日本工業大学:4、下関市立大学:1)の学生が受講した。

今年度は表10に示す北九州市、下関市に本社が立地する企業12社にご登壇いただき、各企業からは会社の沿革、国内外での事業展開、主力商品の特徴、業界全体の動き、人材育成の方針、社会貢献活動など、様々な観点から企業を取り巻く状況について紹介があった。受講した学生は以下に示すように、地域企業の存在そのものをはじめ、企業の特徴や方針、経営方針、企業が求める人材など、各企業から多くのことを学ぶことができた。

講義最終日の最終コマでは、今回の座学で各企業・団体から何を学んだか、印象に残った企業の特徴は何か、それを踏まえてどうすれば北九州・下関地域から若年層の流出を防ぐことができるかというレポート課題を課し、その執筆に向けてグループディスカッションを実施した。受講生のレポートからは以下に示すような幅広い意見があげられた。

◆企業から何を学んだか

- ・北九州・下関地域にこんなにも多くのいい会社があるということ
- ・企業と地域社会は密接に関わっているということ
- ・地域密着型にこだわる企業があること
- ・人口減少が著しい北九州・下関地域で店舗を展開し続けていること
- ・地域に密着しつつ新しいことをしていること
- ・企業が社員に最も求めることは会社の理念や方針に共感してもらうこと
- ・全ての企業が当然のことながら今後の将来展開をしっかりと見据えていること
- ・必要な人材や大学でやってほしいことを明確化させていること
- ・企業に就職することを考える場合その企業の企業理念に共感できるかどうか重要ということ

- ・自分の好きなことをとことんやるということ
- ・これから先自信を持って自慢できる企業・団体に働くということ

◆どうすれば若年層の流出を防げるか

<企業側の視点から>

- ・この地域に本社を置き続けること
- ・近隣大学を中心とした PR 活動を積極的に行うこと
- ・奨学金支援を受けている地域の学生が企業に就職した場合奨学金の一部を企業側が負担すること
- ・地域への投資活動にも力を入れること
- ・地域での行事や大学生への説明会を増やすことで会社の知名度を上げること
- ・事業の幅を広げることによる新しい分野の人材を確保すること

<行政側からの視点>

- ・首都圏に集中している企業を地方に分散させるように誘導する
- ・行政が北九州・下関地域を中心に活動していない企業に企業誘致の PR 活動を行い北九州・下関地域に企業の数を増やす
- ・地元企業とフルに連携して魅力あるまちづくりに取り組むこと
- ・行政主体の企業説明会を増やすこと
- ・北九州・下関地域を中心に活動している企業を中心とした合同会社説明会を行政が開催すること
- ・地域内就職を条件に奨学金返済を一部肩代わりする制度を創設する
- ・進学等で県外に出て行ってしまった学生が地元で就職することによって、その学生の奨学金が軽減、免除されるような仕組みを設ける
- ・北九州市のイメージ改善や治安改善、交通機関の改善が必要

<大学側からの視点>

- ・地域の魅力ある企業を学生にしっかりと紹介する機会を持つ
- ・学生に地域企業の情報を提供する場を作ること
- ・その企業に就職した卒業生に協力してもらいで OB・OG 交流会のようなものを積極的に開くこと
- ・企業と大学が連携し地域へ貢献することで大学の知名度をあげる
- ・進路を紹介する場において、なぜ地元企業への就職が求められているのか教えてほしい
- ・今回行われた大学コンソーシアムなどの企業について学ぶことができる科目を長期休暇中だけでなく学期中の授業にも取り入れるべき
- ・3、4年生だけではなく1、2年生に対しても地元企業について知る機会を与える
- ・地元の企業と積極的に共同研究を行うこと

<学生側からの視点>

- ・積極的に地元企業の情報を集める
- ・積極的に企業を知ること、またチャンスをつかみに行くこと
- ・地元企業や行政などが開催する合同会社説明会に積極的に参加する
- ・企業の開催する説明会などに赴き、北九地域の企業についてより学ぶことで自分のやりたいことを明確化すべき
- ・地域企業を紹介する講義や地域企業の企業説明会などの地域企業を知る機会に参加すること
- ・積極的に地元企業のインターンシップに参加すること
- ・最初に自分の希望の職を明確にした上で、大学を仲介して地元企業の就職先の紹介を受けられるようにすべき

今年度は40人の参加申し込みがあったにもかかわらず、最終的に単位を付与したのは23人にとどまり、昨年度よりも単位付与率は低い結果となった。履修登録を出していたにも関わらず、講義開始日から欠席した学生が数人いたこと、座学は全講義への参加が単位付与の条件であるにも関わらず、最終日の午前の授業に出席しなかった学生に対してルール上単位を付与しなかったことなどが要因として考えられる。

一方で、今年度も昨年度に引き続き1社当たりの時間が45分と通常の講義よりも短い設定であったこともあって、学生達はより講義に集中的できていたように感じられた。自発的な質問も多く見られた。次年度は企業見学の割合を増やし、座学をワークショップ形式に変更し、学生達が主体的に企業の事を学べる場を引き続き提供することで、少しでも学生の地域定着に貢献できればよいと考えている。



企業見学は、8月20日、21日の2日間、北九州市や下関市（近隣市町村含む）の各施設および、日本を代表するものづくり企業の工場を見学しながら、現場の専門家から事業や仕事内容はもちろん、特に環境など社会貢献部分についての講義を受講することで、SDGsを軸に、日本における将来への持続的な企業の在り方を理解させることを目的とした。

具体的には、1日目はシャボン玉石けん㈱と㈱デコス、2日目は㈱タカギと九州旅客鉄道㈱（小倉総合車両センター）に訪問し、工場見学及び、現場の会議室をお借りして講義を行った。授業の工夫としては、単に見学して話を聴いて終わりにならないように、事前課題として各企業のホームページなどで、企業の理念や沿革、生産している商品などについて読み込み、必ず質問を用意させ、質問を義務付けた。また、終了時にバスの中で、「訪問したからこそ気づいた、その企業の興味深い取組は何か?」「なぜその企業の取組に興味深いと感じたか?」についての小レポートを記述させた。そして最終日に、小レポートを返却して、期日までに最終レポートとして、訪問した4つの企業の中で、最も興味を持った会社を1つ選び、その理由を説明し、そしてその企業が求める人材は何か、そのために今後の大学生活において具体的にどう過ごすかについてアクションプランを書かせた。

本授業を通して学生の変化は最終レポートに記述で読み取れる。まず、選んだ企業の内訳は、シャボン玉石けん㈱11人、㈱タカギ5人、㈱デコス2人、九州旅客鉄道㈱1人だった。そして、それぞれのレポートが、企業の規模や知名度ではなく、それぞれの企業の強みを的確に理解しつつ、その企業のSDGsの側面も評価した上で、今後のキャリアプランを具体的に記述していた。大半が1年生にも関わらず、関門地域の企業団体を将来の進路の一つとしてインプットできたのではないかと考える。



(2) 経営入門

【担当教員】北九州市立大学 基盤教育センターひびきの分室 教授 辻井 洋行

【受講者数】18人(北九州市立大学、西日本工業大学)

【授業概要】

本講義は、令和元年度の新規事業として、北九州産業学術推進機構の研究会である北九州革新的価値創造研究会(カチケン)のメンバー経営者との共同企画によって実現したものである。北九州市立大学ひびきのキャンパスのみならず、関門地域の大学生の育成に何らかの形で取り組みたいというご発案を当研究会座長の清永誠氏から頂いたことが企画のきっかけである。夏期集中講義の形態で、経営者と大学生との密度の高い交流の機会を創り出し、それを通じて、会社説明会や企業案内、会社ウェブサイトなどでは受け取ることのできない価値を大学生が受け取ることを目指した。

【実施結果】

この授業を通じて、受講者は、これら経営者との直接のやり取り、主体的な調査研究と発表を通じて、「企業を経営するってどういうことですか?」という問いを探求した。また、経営者として、ひとつの企業を預かることの意味とやり甲斐について、企業滞在調査を通じて学びとり、受講者自身の言葉で説明できるようになること、経営者や企業の魅力を発見することを目指した。

ご協力頂いたのは、次の7人の会社経営者の皆様で、株式会社ワークス 代表取締役 三重野計滋氏、株式会社鶴元製作所 代表取締役社長 鶴元 清一郎氏、有限会社ゼムケンサービス 代表取締役 籠田 淳子氏、プラントメイク RISE 株式会社 代表取締役 米澤 誠治氏、熱産ヒート株式会社 代表取締役社長 川口 千恵子氏、株式会社ヴィンテージ 代表取締役 郷田 和正氏、株式会社ヒューマン・リソースデベロップメント 代表取締役 清永 誠氏である。

授業は、オリエンテーションと受講生による授業準備、学習成果発表会を含めた8日間を実施した。初日は、授業への取り組み方を確認した上で、「経営者—学生トーク」に向けた事前質問の作成と経営者から学生への質問に対する回答の作成を行った。2日目と3日目には、6人の経営者に2人ずつ3コマに渡って登壇して頂き、事前に作成した質問票並びに回答票をガイドにしつつ、Q&A トークセッションを行った。4日目には、受講者を2グループに分け、3社ずつをバスで移動しながら見学し、「経営者—学生トーク」で経営者が語った経営理念や基本方針が、事業現場でどのように具現化されているのかを確認した。5日目には、企業見学の振り返りを踏まえ、企業滞在取材の準備を行った。6日目、受講者は朝礼から終業時まで終日で企業に滞在し、経営者や従業員へのインタビュー、社内外の事業場への見学動向、実務実習などを通じて、対象企業における業務内容と取り組み方、経営者と従業員との関わりを探った。7日目には、滞在取材のまとめと資料整理を行い、8日目の学習成果発表会に向けた準備をした。学習成果発表会では、北九州イノベーションギャラリーを会場として、滞在取材受入企業、行政、大学関係者を招待した。受講者たちは、企業滞在取材の内容に基づいて、対象企業の事業内容と経営者の魅力、「企業を経営するとはどういうことか?」という問いに対する考えを発表した。

この授業の成果は、まず、大学生が、北九州市地域で、高い専門性を持つエキスパート企

業とその経営者・従業員の皆さんとの接点を持たせたことである。社会を支える多様な企業の有り様に触れ、世界観を変えるような機会を得たものとする。また、特に、経営者との交流を通じて、事業家マインドに触れ、自身のキャリアビジョンを明確にしたという大学生の言葉も得られた。北九州学術推進機構からも、本授業企画の意義についてご指摘頂くことができた。ぜひ、次年度にもより多くの大学生と経営者の参加を得て、授業を継続していきたい。

表 11 授業テーマとゲストスピーカー

授業テーマ	ゲストスピーカー
自社の事業概要と経営方針の紹介	(有)ゼムケンサービス代表取締役 籠田淳子
自社の事業概要と経営方針の紹介	プラントメイク RISE(株)代表取締役 米澤誠治
自社の事業概要と経営方針の紹介	(株)鶴元製作所代表取締役社長 鶴元清一郎
自社の事業概要と経営方針の紹介	熱産ヒート(株)代表取締役社長 川口千恵子
自社の事業概要と経営方針の紹介	(株)ワークス代表取締役 三重野計滋
自社の事業概要と経営方針の紹介	(株)ヴィンテージ代表取締役 郷田和正
企業情報の読み解き方	(株)ヒューマンリソース・デベロップメント 代表取締役 清永誠
経営者-学生トーク進行 (1日目)	(株)ヒューマンリソース・デベロップメント 代表取締役 清永誠
経営者-学生トーク進行 (2日目)	(株)ヒューマンリソース・デベロップメント 代表取締役 清永誠
企業一日滞在調査のまとめと発表資料作成指導	(株)ヒューマンリソース・デベロップメント 代表取締役 清永誠
学習成果発表会の司会進行と評価コメント	(株)ヒューマンリソース・デベロップメント 代表取締役 清永誠

(敬称略)

